

日本国大使の山本です。本日はお招きいただき、ありがとうございました。先ほど工場も拝見し、本日のお祝いのお大切さを一層実感いたしました。

最初に、コイヴィスト元大統領のご逝去につき、哀悼の意を表したいと思います。コイヴィスト大統領は、日本とフィンランドとの多彩な関係を切り開いた先駆けの一人でした。両国関係はその後確実に、大きな発展を遂げました。コイヴィスト大統領に感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

十條サーマルもまた、日本とフィンランドとの関係を切り開いた先駆けでした。二十五年前と言えば、冷戦が崩壊し、欧州もアジアも重苦しい不確実性に包まれていた時代でした。その中でフィンランドへの進出は、誠に大きなご決断であったと思います。

その後の二十五年、フィンランド共和国百年の歴史の、四分の一の長きにわたるご尽力をもって、十條サーマルはフィンランド経済の中に確固たる地位を築かれ、日本とフィンランドの力強いビジネス・パートナーシップの象徴ともなりました。

本日の二十五周年記念式典の大切な価値を、皆さまとともに噛みしめたいと思います。日本製紙の馬城社長ご夫妻、十條サーマルの木村社長に心からお祝い申し上げます。十條サーマルの社員、OBの皆様には、心から敬意を表します。

マヤラハティ・エウラ市長始め幾多の地元の方々、アールストローム社長、UPM Raflatac、Euran Erikois paperit 始め幾多の関係企業代表の皆様にも、感謝申し上げます。十條サーマルが、地元エウラの風景にとり、その不可分、不可欠の一部であり続けているのも、皆様のおかげです。

日本とフィンランドとの経済関係はますます深まっています。安倍総理とニーニスト大統領は、お互いの国がビジネス上のベースキャンプになり得ると考えています。日本人とフィンランド人には数多くの共通点があるからです。共に話し合い共に作業をするチャンスが増えれば増えるほど、私たちは、更に多くの共通点を発見し合っていけるはずですよ。

欧州全体を不確実な見通しが覆う中、日本とフィンランドほどに祝福された関係は数少ない。十條サーマル二十五年の歴史を思うにつけ、本日も列席の皆様顔を仰ぐにつけ、この祝福された関係がますますの発展を遂げるよう、皆様と共に努力してまいりたい、その決意を申し上げます。祝辞といたします。